

機械器具 32 医療用吸引器
一般医療機器 特定保守管理医療機器 真空吸引器(36778000)

壁掛吸引器 WS-1400(WS14PD/WS14SD)

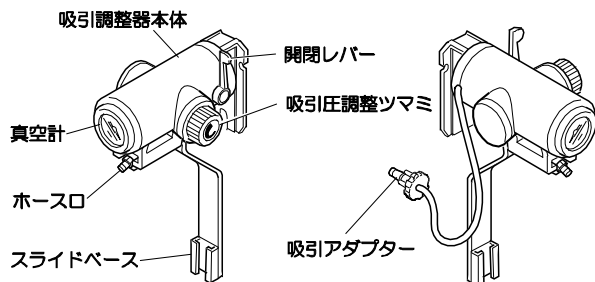
【禁忌・禁止】*

＜使用方法＞

- ・ 吸引以外(採血用など)の目的で使わないこと。〔正常に作動する保証ができず、危険が伴うため〕

【形状・構造および原理等】

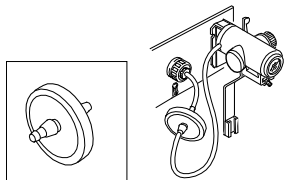
1.形状・構造



＜オプション(別売)部品＞

感染対策フィルター(PTFE)

院内配管への吸引物のミスト浸入を防ぎます。吸引調整器本体と吸引アダプターの中間ホースを切断して使用します。



2.原理

本器は、院内配管設備の吸引源などを利用した非電動式吸引器です。吸引調整器本体はダイヤフラムとスプリング、吸引圧力調整ツマミ等で構成され、吸引源に接続するとダイヤフラムを挟んだ両側に圧力差を生じ(吸引源圧力と大気圧の差)、調整ツマミを回すと弁が開いて、吸引瓶内に負圧が生じ吸引が可能となります。調整ツマミによりスプリングの伸縮を調整することで、吸引圧力を調整できます。

仕様等

- ・10 秒以内に-20kPa 以上の吸引圧力に到達する。
- ・吸引瓶容量 1400mL

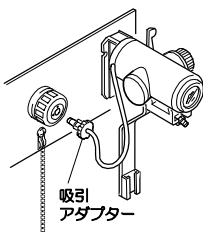
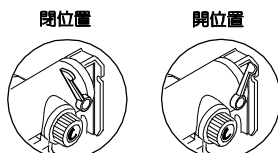
【使用目的又は効果】

本器は、病院の医用ガス供給システムから供給される陰圧を利用して、ベッドサイド又は手術室の患者の気道の異物除去、口腔内の不要溜り液、手術中又は手術後の血液、洗浄・消毒液の吸い取りなど、医療施設内での治療・吸引処置に用いられる。

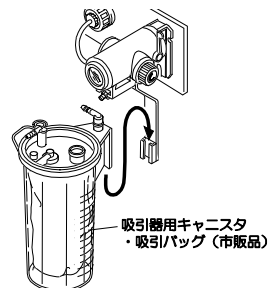
【使用方法等】

1.準備

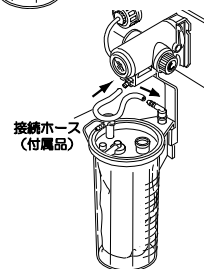
- ① 病室のアウトレットパネル部のハンガ一受けにしっかりと取り付けてください。
- ② 開閉レバーが「閉」の位置であることを確認してください。
- ③ 吸引アダプターを、アウトレットパネルの吸引用アウトレットに「カチッ」と音がするまでしっかりと差し込んでください。



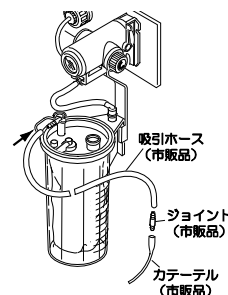
- ④ スライドベースに、市販の吸引器用キャニスタ及び吸引バッグを取り付けます。



- ⑤ 本体のホース口に接続ホースを取り付け、接続ホースのもう一方を吸引器用キャニスタのコネクターに取り付けます。

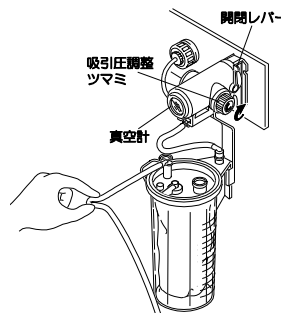


- ⑥ 吸引バッグのコネクターに、目的に合った吸引ホース、ジョイント、カテーテル等を接続します。



2.使用方法

- ① 開閉レバーの位置を「開」の位置にします。
- ② 指で吸引ホースを折り曲げ、真空計を見ながら調整ツマミを回して、必要な圧力(医師の処方した圧力)に調整します。
- ③ 圧力が設定できたら、吸引を開始してください。
- ④ 吸引を中止する時は、開閉レバーを「閉」の位置にしてください。



3.使用後の取扱いについて

- ① 吸引が終了したら、開閉レバーを「閉」の位置にして、パイピングの吸引源を止めてください。
- ② 吸引器用キャニスタ(吸引バッグ)の添付文書に従って、吸引物およびキャニスタ・バッグの処理を行ってください。
- ③ 本体の外装部は、水で湿らせた布に中性洗剤を少量加えて汚れを落とし、乾いた布等できれいに拭き取ってください。(クレゾール、ヨードホル、アルコール系、両性界面活性剤等の消毒剤で清拭しないでください。ヒビ割れの原因になります)

【使用上の注意】*

＜重要な基本的注意＞

- ・ 振動や衝撃等を与えないこと。
- ・ 長期間使用しない場合は、開閉レバーを「閉」の位置にし、必ずアウトレットパネルから、吸引アダプターを外しておくこと。
- ・ 長期間使用しなかった場合は、点検に出すなど作動上の安全を確認してから使用すること。

＜不具合・有害事象＞

- 1)重大な不具合
吸引異常(吸引不能・過吸引)
- 2)その他の不具合
接続部からの気密漏れ
- 3)その他の有害事象
感染

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

製造販売元:株式会社 Sanko Medical

埼玉県さいたま市西区中釘 652 番地 048-624-8121

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

- ・気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気などにより悪影響の生ずるおそれのない場所に保管してください。
- ・傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)など安定状態に注意してください。
- ・化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないでください。

＜耐用期間＞

本器の耐用期間は、購入後 7 年です(当社データによる自己認証)。ただし、推奨された環境で使用され、次の「保守・点検に係る事項」を実施した場合の耐用期間であり、使用状況により差異が生じることがあります。

【保守・点検に係る事項】*

＜使用者による保守・点検＞

点検事項(日常点検)

- 1)外観の点検(破損・ヒビ・汚れ・部品の紛失・接続部の緩みなど)
- 2)パッキンが正しく取り付けられているか確認してください。
- 3)接続部やツマミ等に緩みがないことを確認してください。
- 4)開閉レバーの動きが正常で、指で吸引ホースを折り曲げ、吸引圧調整ツマミを回して、真空計の指示値がスムーズに変動することを確認して下さい。

点検頻度:使用前に点検

点検項目(保守点検)

日常点検の項目に加え、各部品に変形や劣化がないかなど、より詳しく本器の状態を確認してください。

点検頻度:3 カ月に一度

点検により異常が発見された場合は使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談のうえ、製造販売元または医療機器修理業者に点検・修理を依頼してください。

＜業者による保守・点検＞

点検項目(定期点検)

ゴム製部品などの消耗部品の交換のほか、機能・性能点検を行います。また、必要に応じて消耗部品以外の劣化の進んでいる部品の交換を行います。(有料となります。点検周期については当社推奨)

点検頻度:2 年に一度

製造販売元または医療機器修理業者による定期点検を実施してください。

消耗部品の交換について

ゴム製部品、ホース類は消耗部品です。破損、ヒビ、劣化や変形等が見られる場合には速やかに当社純正部品に交換してください。交換部品については販売店へご連絡ください。また、ゴム製部品およびプラスチック製部品は経年劣化しますので、定期点検を必ず受けてください。

修理について

お買い上げの販売店にご相談のうえ、製造販売元または医療機器修理業者での修理を行ってください。

お願い

本器を修理として戻される場合には、清拭による消毒を行った後にお戻しください。なお、感染症の恐れがある場合にはお受け取りできませんので、あらかじめご了承ください。